

分野	項目	内容	実績及び実施状況
普及啓発	■相談窓口案内「気づいてくださいこころのサイン」を活用した普及啓発	「ひとりで悩まず相談を」というメッセージと相談窓口の情報を広く伝えることを目的に作成。児童生徒を通じて家庭に情報へ届けるため全小・中・高等学校へ配付。待ち時間等に手に取ってもらえるよう病院、薬局、歯科医院へ配架。キャンペーンや研修会等の参加者へ配付するなどの機会を通じ広く周知普及啓発を図る。	全小中学校、高等学校児童生徒教職員へ配付、病院・薬局・歯科医院・ハローワーク等公共施設へ配架。民生委員児童委員・よろず相談センター等関係団体・各種研修会・会議参加者への配付。イベント、キャンペーン等での配布。駅地下広告板を活用し拡大したものを掲示。市民課で転入者用資料・こんにちは赤ちゃん事業、労働セミナー参加者に配付。窓口課での配架。JR平塚駅構内で配架・配布。（配布数約55,000枚）
	■メンタルヘルスセルフチェックシステム「こころの体温計」を活用した普及啓発	幅広い年齢層にうつへの早期気づきを促すとともに心の健康に関心を持ってもらうことを目的に、パソコンや携帯電話を使って簡単にストレスや心の落ち込み度がチェックできるメンタルヘルスセルフチェックシステムを導入し、サービス提供。併せて各種相談窓口の情報も掲載。	全8メニュー（「本人モード」「家族モード」「あかちゃんママモード」「アルコールチェックモード」「ストレス対処タイプテスト」「いじめのサイン守ってあげたい！」、「これって愛？、これってDV？」、「大切な人を突然亡くされたあなたへ」）をパソコン及びスマートフォンAndroid版アプリ、ios版アプリで公開。令和2年9月から新メニュー「楽観主義のすすめ『こころのエンジン』」を追加。 R3年度アクセス数：33,817件
	■自殺予防週間関連事業	9月10日の世界自殺予防デーに因み、9月10日からの一週間は自殺予防週間（自殺総合対策大綱）。期間中、自殺予防啓発活動を推進。	市内小中学校へ自殺予防啓発ポスター掲示、広報ひらつか・HPへ関連記事掲載、FM湘南ナバサでの情報発信、市内各図書館で「こころと命のサポートのための本」のコーナー設置を実施。庁舎内多目的ホールでパネル展実施
	■自殺対策強化月間関連事業	例年、月別自殺者数の最も多い3月は自殺対策強化月間。期間中、関係団体等と連携して、自殺対策について広報啓発活動を推進。	庁舎本館多目的ホール、公共施設等へ自殺予防啓発ポスター掲示。広報ひらつか・HPへ関連記事掲載、FM湘南ナバサでの情報発信。中央図書館で特設コーナー設置・返却スリップ（返却期限を記載して貸出時に渡すしおり）にメッセージ記載・こころと命のサポート特集映画会を実施。
	■視聴覚教材を活用した普及啓発	いじめの問題や命の大切さをテーマとしたDVDやビデオを学校の道德授業や人権教育に活用してもらうよう貸出。	11タイトル所蔵。作品リストを作成し、学校の人権教育担当者会で紹介。道德授業、人権学習会などでの活用を図る。 R3年度：1作品貸出。
	■命の尊さの普及啓発（協働事業）	日ごろから本を通じた地域活動をしている団体と協働し、読み聞かせ等の活動を通じて「命の尊さ」の普及啓発や、自己肯定感を高めてもらうことを目的とした事業を実施。協働先団体：浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会	○協働事業で作成した「いのちの尊さをつたえる本」Vol.5のリストを発行。読み聞かせを実施してもらう。他地区の協議会にも配付して取組を紹介し周知・活用を図る。 ○いのちの尊さをつたえる本「今月のおすすめ」2冊を、コメントをつけてHPで紹介。
	■広報活動	リーフレット配布、ポスター掲示、HPやラジオでの情報提供、広報紙や機関紙等に関連記事掲載。広報ひらつか記事掲載（わかちあいの会（自死遺族の集い）開催日程の周知）。FM湘南ナバサでこころの体温計等事業紹介、情報提供。HPやポスターを活用した情報提供、メッセージ発信。	R3年度○広報ひらつかでの周知：年4回 ○FM湘南ナバサでの情報提供：R3年度2回（9月の自殺予防週間、3月の自殺対策月間に向けて）
人材育成	■講演会等	命の大切さ、人と人とのつながり、家族の絆、心の問題等をテーマにした講演会を実施。 【生き方・命の大切さを学ぶ講演会】中学生に命の尊さを伝えるときともに自己肯定感を高めてもらう講演会を実施（中学校との共催企画）。	生き方・命の大切さを学ぶ講演会 R3年度：3校（大住中、神明中、大野中）で実施。 参加者数延べ1,109人（うち生徒数1,040人）
	■ゲートキーパー養成	自殺問題への正しい理解を深めてもらうとともに、身近な人の様子的変化に「気づき、声かけ、話を聴き、必要に応じて相談へつなげ、見守る（支え合う）」ことの大切さを伝えるために、養成講座を開催。 修了者には、グリーンのピンバッチ（神奈川県作成）を配付し、ゲートキーパーへの理解を広げていく。 （情報宅配便のメニューとしても提供。）	R3年度：7回 計127人養成 ①新採用職員6/4（43人）、 ②労務安全衛生協会平塚支部地区会7/6,7/14,7/15,7/30（63人） ③大学生社会福祉実習生9/10（2人） ④神奈川県社会福祉専門学校11/18（19人）
	■自殺対策研修会	市民、関係団体、職員等を対象に実施。また、神奈川県等が実施する研修会に職員を派遣し職員の資質向上を図る。	R3年度： 【開催研修】 ①小中教頭研究会研修…11/10（79人） ②事例検討会…7/16（35人） 【受講研修】自殺対策担当国会議、市町村自殺・依存症対策主管課長会議
推進体制	■自殺対策庁内会議	庁内関係22課の課長職により構成。関係各課の連携・協力体制の構築、情報共有のために設置。	R3年度：10/27実施（担当者会議合同開催） 中間年見直しのため、自殺対策計画の事業や取組の状況把握、計画内容の点検等を行った（書面にて実施）。
	■自殺対策担当者会議	庁内関係22課の担当職員＋平塚保健福祉事務所、社協、平塚警察で構成。市民から寄せられる様々な相談が適切な支援につながるよう、関係各課の連携、情報の共有、また自殺対策に関する知識を深めていくために開催。	R3年度：10/27実施（庁内会議合同開催） 中間年見直しのため、自殺対策計画の事業や取組の状況把握、計画内容の点検等を行った（書面にて実施）。
	■平塚市自殺対策会議	平塚市民のこころと命を守る条例第16条に基づき、総合的な自殺対策を推進するため、平成22年度に設置。平成25年度から附属機関。	R3年度：11/16
相談体制	■いのちと暮らしの総合相談会	各相談者が、それぞれ抱え込む問題に応じて、複数分野の専門相談員が連携して総合的な支援を行う包括的な相談会を「いのちと暮らしの相談会」と称し、市民の様々な困り事や悩み事に関する相談を2名（もしくは3名）体制で受ける。	R3年度：3/15（6人（うち2名欠席））
その他	■自殺者等の実態把握	内閣府「地域における自殺の基礎資料」（警察庁自殺統計ベース／厚生労働省人口動態統計ベース）等から入手できるデータによる実態把握。	自殺未遂者については、救急搬送（自損）件数による人数等の把握（消防救急課） R3年：（162件出動、136人搬送）
	■保健福祉総合相談	複合的な課題を抱える相談者に対する支援として、総合的に相談内容を把握、整理し、複数の窓口に及ぶ相談については担当課との連絡、調整を行い、解決を図る。また保健福祉に関する情報の収集及び提供を行う。	来所・電話相談、窓口案内等に対応。関係各課、関係機関との連携及びつなぎに際し専門知識が必要となる困難ケース等の相談については社会福祉士が対応。 R3年度相談件数：1,151件（内、こころの健康相談件数73件）
	■くらしサポート相談	生活困窮者自立支援法の施行を受け平成27年4月1日から保健福祉総合相談に「くらしサポート相談」の窓口を併設し、生活困窮者の相談支援を実施。	相談員4名を配置。併せて社会福祉協議会の貸付相談の相談員を1名置き、保健福祉総合相談とくらしサポート相談、貸付相談が一体となって相談支援ができる体制を取っている。 R3年度相談件数：来所相談7,204件、電話相談2,315件
	■自死遺族支援	自死遺族の方が利用できる相談窓口の周知。自死遺族の方への理解を深めるための研修等の実施。わかちあいの会（自死遺族の集い）開催とあり方の検討。	自死遺族の方が利用できる専用相談窓口、わかちあいの会の情報を周知。「わかちあいの会（自死遺族の集い）」開催（県共催）。 R3年度：年5回開催、延べ35人参加 ※新型コロナウイルスの影響により8月は開催を中止。